福島県養護教育センター・初任者研修　　2006.8.9.

講義レジメ
「子どもと係わり合うことの意味」

阿 部 幸 泰

（注：実際の資料は印刷物ですが、ここではその印刷物の載っているサイトを記載します。）

Ⅰ：「利用者の自己決定権と支援の関係」
資料１　（ http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/kibisoukanmosikizu4.pdf ）

Ⅱ：「障害児をもつ親の受容能力への心情の（仮説）層過程」
資料２　（ http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/oyasisakuzunyounyu.pdf ）

Ⅲ：「コミュニケーションの背景情報」
資料３　（ http://cen.web.infoseek.co.jp/baltuku/syougaikeamaneteisei.pdf の資料４）

Ⅳ：支援（教育も含む）とは
①教育活動（療育、育児を含め）：
「あえて比較せず、生きようとする生命の互いに輔け合いながら、
生きるとはどういうことかを問い続ける活動。　－梅津八三－　」

“Children with disabilities are children, first.”

「自分は子どもたちに何を説くべきか、それを考えるのが教師である。
それは教師の第一歩であり、最後でろう。　－養老猛司－　」

②「専門家は、指導や助言以上に、親の不安感を取り除いてください。
親にエネルギーをいっぱい与えてください。
そうすれば親子で前向きに生きていく勇気が生まれます。
それは、障害を治すことと同じくらい、いえ、それ以上にありがたいことです。
－明石洋子－　」

“ My child is not only mine, but also a person. ”

③「相手を理解するのでなく、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築くこと。
－小澤竹俊－　」

“Not doing,　But being.”

④「人間相手の仕事には、ゴールはない。
係わるだけでなく、係わり合い続けること。
知識と技術に裏打ちされた知恵をいかに働かせるかのチャレンジ精神と、
自らを検証する勇気が必要。　←　プロの資質」

⑤「与えられる知識は応用が効かない、求める知識は知恵となる。」

⑥「地域で共に生きる社会」とは
単に地域の福祉資源を利用することだけではない。
それ以上に、地域の方々（親も含め）が共に生活する地域社会の構築、意識改革こそが必要であり目標となる。　→　地域とは、場所でなく、地域の人々との繋がり。

養護学校教師は、卒業生が地域でどう生活しているかをぜひ見学すること
→　そこから地域で生活して行く（自立）ための指導へのヒントが見つかる

Ⅴ：質　疑